

# ICT活用工事(各工種毎)における出来形管理手法と積算方法

出来形管理 ICT活用工種	3次元出来形管理等の施工管理										
ICT活用工事 対象工種名称	空中写真測 量(無人航空 機)を用いた 出来形管理	地上型レー ザースキャナ ーを用いた出 来形管理	無人航空機 搭載型レー ザースキャ ナーを用いた 出来形管理	地上移動体 搭載型レー ザースキャ ナーを用いた 出来形管理	TS等光波方 式を用いた出 来形管理	TS(ノンプリ ズム方式)を用 いた出来形管 理	RTK-GNSS を用いた出来 形管理	施工履歴デー タを用いた出 来形管理	地上写真測 量を用いた出 来形管理	モバイル端末 を用いた出来 形管理	音響測深機 器を用いた出 来形管理
土工(1,000m <sup>3</sup> 以上)	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
土工(1,000m <sup>3</sup> 未満)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※
河床等掘削											○
作業土工(床掘工)	3次元出来形管理等の施工管理対象外										
付帯構造物設置工	○	○	○	○	○	○	○				
法面工	○	○	○	○	○	○	○				
擁壁工	○	○	○	○	○	○	○				
地盤改良工								○			
基礎工	○	○	○	○	○	○	○				
舗装工		○		○	○	○					
舗装工(修繕工)					○			○	○		
構造物工(橋梁上部)	○	○	○		○						※
構造物工(橋脚・橋台)	○	○	○		○						

## 【注意事項】

○   : 補正係数等の費用計上対象出来形管理

※土工1000m<sup>3</sup>未満、構造物工(橋梁上部)については、管理断面及び変化点の出来形計測(従来の出来形管理)を想定しているため、面管理を実施しても費用計上は行わない。

## 【補正係数の費用計上できる出来形管理手法(面管理)】

①【対象工種】ICT土工1000m<sup>3</sup>以上、ICT河床等掘削、ICT舗装工  
【出来形管理】出来形管理の計測範囲において、①1m間隔以下(1点/m<sup>2</sup>以上)の点密度が確保できる出来形計測を行い、②3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、③出来形の良否を面的に判定する管理手法(面管理)を実施する

②【対象工種】ICT付帯構造物設置工、ICT法面工、ICT擁壁工、ICT基礎工、ICT構造物工(橋脚・橋台)  
【出来形管理】①工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得して、②出来形管理(面管理)を実施する

## 【補正係数の費用計上できない出来形管理手法(断面管理)】

出来形計測を行う管理断面と出来形計測対象点の指定を行い、①3次元計測技術及び検尺テープ等により出来形計測を行い、②出来形管理基準及び規格値を満足するかの判定を③一定の間隔毎の断面で計測等を行う管理手法(断面管理)を実施する